反安保大学改革の嵐の下、我々は学生を[illegible]

コムソモール

K O M C O M O L

KSD 日本共産主義学生同盟東京教育大学支部情宣機関紙 No.334 69.4.19

我らの営為のすべてを凝集し知的に武装された運動へ つくって、今こそ学友学の共同作業を開始せよ!

ー全学友は21日農授業再開粉砕に立て!ー

本日4.19教育大闘争報告集会に結集されたすべての人々へ ーロック・アウト以降の国家権力・大学当局の露骨な弾圧に直面しつつ、それをはねのけ、固く隊伍を組んで斗い抜いている教育大の学友諸君、そしてともに等しく筑波闘争の姿を熱し続けている、東大、日大、外語大、中大、法政大、慶応大、明学大、早大、東京女子大その他大学の戦闘的学友諸君！そして筑波な斗いを前進させ、教職員労組都市工研究会の共闘している研究者諸君、技術者[illegible]

[illegible]

い連帯の場をあらわすと同時に、筑波闘争の意義と本集会の帯びている重大な任務とについて述べていきたい。

な一布石である。激化する帝国主義間の市場獲得競争の中で、日本帝国主義は「技術革新による国際競争力の強化」を自己目的「自主技術開発」を、その死活の問題として追求するに至っている。そのための国家的な保証の軸が研究学園都市なのである。筑波現地においては、農民の耕作地を収奪し去り、具体的な建設が開始されている。先日、佐藤首相の「過疎を遺げ」の指導の下、創刊にその判決が感ぜられるであろう。

[illegible]

のか？「解放するのか」ではなくして、「筑波においてされ深く支配されるのか？それとも支配をはねのけるのか？」であり、「より強固な秩序の中に身を投ずるのか？それとも秩序をうちやぶるのか？」である。我々は、現在あり、文明自体進するであろうところのブルジョワジーの運動に対して、真に主体的な対応をもって臨まなければならない。そしてその枠組の中においては、徹底的に大学の[illegible]における人間存在と実践との統[illegible]

筑波研究学園都市を解体せよ!

教育大筑波闘争は、大学の移転問題、研究学園都市に対する否定と教育大のそこへの合流（新大学建設）に対する拒否から展開されている。研究学園都市こそは、70年代日本帝国主義の海外侵略、国内支配体制再編のための重要

教育との具体的な統合は、研究のブルジョワ的生産秩序の支配構造へのより深い組み込みにほかならない。それは「大学の目的別再編成」なりの指摘によって這い回る見られたブルジョアジーの論理を集大成したものに他ならない。正しく研究学園都市は、現在の研究・教育体制の全面的な合理化をかちとろんとするものである。

我々は、これに対して文字通りラジカルな対応を迫られている。逆に、「移転」に反対する

一方だけとかれではいであろう。「移転され、スクラップ化される存在」としての学友（この点については支部機関紙33号参照）は、大学内に叛乱し、既成秩序を破壊し、自らを飛躍しつつ、ブルジョワジーの筑波研究学園都市を軸とした研究・教育合理化の運動と対決しなければならなかったのである。我々が大学における知的生産にたずさわるということにおいて、人間存在と実践との統一を達成するということ、つまり、我々の政治の中から、新しい価値観

を創出していくことについて、我々の運動は未だ脆弱である。しかし、様々な自主講座運動の試みは批判的に摂取されていかなくてはならない。

本日の報告集会の三つの重大任務について!

[illegible]

分集会は全学闘運動が積み重ねてきた幾つかの重要な課題の延長線上にあり、それらを統合したものであるばかりでなく、運動の新たな局面への移行を物語るものである。

第一に、教育大筑波闘争の場から、新たに筑波闘争の連帯交流を果すものである。昨年10月16日、第一回の学園共闘以来一貫して筑波闘争の連携、統一に尽力してきた全学闘が、困難な局面にある全国・全都の学園闘争に、再度の連帯の場を設定しただけでなく、筑波闘争自体の重要性の教宣を含めて、筑波闘争が提出してきたところの諸問題を投げかける中から、実践を導くべき理論について相互の交流を図かるものに他ならない。権力の意味から、大学論、そしてについての共通認識を深め、全共闘（全学闘）運動自体を内自化して考察することも必要であろう。

第二に、研究者・労働者との連帯からの新たな闘争ブロックをつくりあげることである。都市工共闘や東大における運動からの研究学園都市への闘争を[illegible]

身がすべき筈である。教研共闘はすでに素粒子研問題をめぐって政府と対決している。筑波研究学園都市解体のためのブロック形成は、組合主義的次元へその衰退としての政治主義とをのりこえているこれらの部分にとっては必然的である。教育大の闘いが筑波移転阻止闘争から更に研究学園都市解体へとその質を高めねばならないことは当然であり、その具体的保証がブロック形成の中に求められることは明らかである。このブロックは、何よりもその共通

闘争の質において、社共の組合主義的条件闘争の方向性を鋭く批判し、それをのりこえて前進していくものとなるであろう。

ともあれ、我々の政治の展開をさらに飛躍的に広げる第一歩として、研究者、労働者の運動との相互認識と理解交流の場として分集会をかちとろう。そしてその後の恒常的な交流、連携の中から、未だ離散的に不充分な教育大闘争の自己革新を促していかなければならない。それは、既成の所謂統一戦線というよりは、相互の内的な連帯を確認し合った「共同作業」のような過程となるであろう。

第三に、今までの自主講座の試みの上に、知識人との連帯を強化しつつ、いわば「理論と実践のルツボ」として分集会を成功させることである。

とともに、闘いが全の激しさを増すにつれて、深刻に意識されるのは主体の問題、その形成の問題である。この点について我々が対自化していくことなしには、大衆運動としての全学闘運動の前途は多くの不分明なカーテンにさえぎられてしまうことになろう。我々は理論を研ぎすましつつ、理論をして実践を指導させてゆかなければならない。現在の我々の闘いは漠とした「パトス」などで支えられるものではない。何よりも知的に武装された運動として形成されなくてはならない。

（教育大筑波闘争はようやく普遍的共感を獲得しつつある。何よりもその共通[illegible]

前が、役停を大学の中へ、バリゲードの中へ還流させる形において、今後益々に形成されていくことが考えられる）

この知的な武装の問題についての、あたりまえのことだが引用をひとつ。

「意識のない大衆の先頭にたった意識のある少数者が遂行した革命の時代はすぎ去った。社会組織が完全に変革されるためには、大衆自身がその変革に加わり、彼ら自身が、問題の本質は何か、何のために彼らは肉体と生命をかけて（衛兵ーエンゲルス）行動をおこすのかを、みずからすでに理解していなければならない」エンゲルス

共同作業の恒常的展開をかちとれ！

すでに述べてきたように、今集会は才一歩である。限られた条件の中で所定の成果をかちとっていくことはできない。こうの任務について、それぞれ、事後の継続的な保証をかちとっていく中から、我々の役割の展開をかちとっていかなければならない。我々の戦闘的な決意を込めて政府ブルジョアジーの心胆を寒からしめよ！現在、社会構造の至るところに顕出している労働者、研究教育労働者の闘いとより広い連帯をかちとってゆこう！

それらの闘争の戦闘的ラジカル性を、社会構造、政治構造の全面に対決しうるものまで上昇させていくことが要求されている。

昨年10月23日、「明治百年祭」に際して、22日教育大でかちとられた労学市民連帯ティーチインが、23日武道館「式典」に対する断乎たるデモストレーションとともにかちとられた。我々はこの試みに倍する圧倒的結集と長期的展開を決意しよう！

さいごに学友諸君！本日の集会に対しても当局の妨害・介入が予想される。全ての参加者は革命的警戒心を発揮しつつ、断乎集会を防衛せよ！

スローガン

★筑波研究学園都市解体！

★教育大筑波移転粉砕！

★全国学園闘争勝利！

★ブルジョワ・ヘゲモニー装置＝大学を解体し、プロレタリア・ヘゲモニー装置として確立せよ！

★闘う労働者・学生の新たなブロックを構築せよ！

★全学友は固く全学闘に結集し、知的に武装された運動を形成せよ！

★すべての戦闘的学友は共学同へ結集せよ！

4.20 安保粉砕！沖縄闘争勝利！全国学園闘争勝利！全都労学統一行動に結集せよ！

〜1:00 明治公園〜集会〜3:00 デモ出発〜

〜首相官邸 一〜 日比谷公園（総括集会） 解散

すべての基地・核基地を撤去せよ！
B52撤去を実力でかちとれ！
米帝政府打倒！
本土政府の帝国主義的支配策〜「一体化」政策粉砕！
総合労働協約粉砕！

4.28才二波統一行動に立て